

MIRAI REPORT

ISSUE. 005

◆ SPECIALIST REPORT

北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点
(北大ロバスト拠点) の紹介

北海道大学大学院 工学研究院 教授 ロバスト拠点代表 石井一英氏

◆ NoMaps 釧路・根室2020

i. カンファレンス1

ローカルプレーヤー - これからの地方の働き方について -

ゲスト

- ・一般社団法人ドット道東
代表 中西 拓郎
- ・東北北海道IoTハッカソン実行委員会
実行委員長 四宮 琴絵
- ・クリプトン・フューチャー・メディア(株)
NoMaps 実行委員会 服部 亮太

モデレーター

- ・ユタカコーポレーショングループ(株)エゾプランニング
フィールドノート事業 清水 達也

ii. 高校生ビジネスコンペティション

◆ 外国人材活用の現状

一事業継続、職場活性化の鍵になり得る外国人材—
地域みらい創造センター 次長 小笠原 創一

◆ 根釧の経済概況 (令和2年9月)

北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 (北大ロバスト拠点) の紹介

1. はじめに

資源と環境制約下に突入した 21 世紀を生き抜くためには、次世代につなぐ新しい時代を切り拓く野心的なビジョンを仲間と創り、知恵と勇気をもって挑戦的に前進する必要があります。そのためには、様々な国・地域・業界分野・立場の異なる皆さんが、お互いの過去の歴史や文化に尊敬の念を抱きつつ「連携・協働」を推進し、社会を変革（ロバスト化）していく必要があります。特に、北海道は日本の食を支える主要な食料生産地域であり、先進的な農林水産業が行われてきました。また、再生可能エネルギーのポテンシャルが豊富であり、エネルギー基地を目指した先進的な取組も進んでいます。人口減少・高齢化が進み社会の大きな構造変換の必要性が叫ばれている中、本プロジェクトが始まったと理解しております。

前代表である増田隆夫先生（現在は理事・副学長）から 2020 年 10 月より代表職を引き継ぎました石井一英です。本活動にご賛同いただいております多くの皆様と一緒に考え、前進したいと考えております。一層のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

北海道大学大学院
工学研究院 教授

ロバスト拠点代表
石井一英氏



【職歴】

1997 年 北海道大学大学院工学研究院助手
2008 年 北海道大学大学院工学研究院助教授
2010 年 北海道大学大学院工学研究院准教授
2018 年～現職

【活動】

元北海道環境審議会委員 現札幌市環境審議会委員
(副委員長)

2. 「ロバスト」の持つ意味

ある系が応力や環境の変化といった外乱の影響によって変化することを阻止する内的な仕組みやその性質のことをロバストネス (Robustness) といい、例えば、ロバストネスを持つような設計をロバスト設計と呼びます。日本語では、頑強性、強靱性、堅牢性と呼称されており、生物学、医学、制御工学、情報工学、経済学など幅広い分野で用いられています。

3. 我々のミッション

地球温暖化や気候変動のような激変する地球環境、依然として増加傾向にある世界人口（ただし国内では減少傾向）、限られた鉱物資源・エネルギーと循環の限界、土地利用も含めた食料生産と分配など、これまで人類が直面してこなかったこれら問題の肥大化は、現在まで築き上げてきた技術、社会基盤インフラや社会システムでは解決策を見い出せず、その再考を迫っています。このような環境の激変に順応できるロバスト社会を構築しなくてはなりません。

北海道大学は最重要ミッション「フードバレー構想」に基づき、農林水産業に生産工学の概念を取り入れることで食のバリューチェーンを堅牢化（ロバスト化）するための組織作りの検討を開始しました。そして、現場ニーズ対応型の農林水産工学技術を開発する研究会「科学技術先導研究会」を 2017 年に設置、さらに、翌年の 2018 年 4 月に発展的に「北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点（以下「ロバスト拠点」という。）」に組織替えをして現在に至っています。

ロバスト拠点は農学研究院、水産科学研究院、工学研究院をはじめとする学内各部署が密接に連携して、農林水産業のロバスト化に資する実学を目指しており、民間企業 92 社、研究機関および関係団体 18、行政機関 13、大学 11 校の計 134 機関、総勢 473 名（2020 年 10 月現在。メール会員・学内会員を含む。）が登録しています。大地みらい信用金庫様と北大ロバスト拠点はこの枠組みの中で強い連携関係にあります。

なお、この拠点は農林水産省「「知」の集積と活用場の研究開発プラットフォーム」として登録され、さらに 2019 年版「農業白書」で大学発のオープンイノベーション拠点として紹介されました。

4. 7つの分科会

農林水産業が対象とする分野は幅広いため、ロバスト拠点では次の 7 つの分科会を設けて所期の目的を達成するために活動を進めています、①フィールド対応技術、②商品への加工技術、③長期鮮度保持技術、④消費者嗜好適合型の生産技術、⑤バイオマス資源化技術、⑥フィールドの防災技術、⑦国際連携。これに加えて、ロバスト拠点の共通施設と



して、研究成果の検証を行う温室 2 棟を北海道大学の農場に設置しました。エネルギー供給は隣接する牛舎の消化槽で発生するバイオガスを利用しています。さらに、萌芽的研究を推進するために、ロバスト拠点の会員を対象に研究公募を行っています。2020 年度からは、次のステップであるコンソーシアム形成型の研究への展開を図っています。各分科会において、フィールドの農家・酪農家・林業家、企業、自治体、研究者間の異分野連携による共同研究がボトムアップ的に展開されており、その成果が期待されているところです。無人トラクターによるスマート農業に関する研究（農学研究院 野口教授）もその一つです。

5. 大地みらい信用金庫様との活動連携による NoMaps 釧路・根室の開催

北海道を舞台に新しい価値を生み出す大きな枠組みであり、クリエイティブな発想や技術によって、次の社会・未来を創ろうとする交流の場である NoMaps と連携をして、去る 2019 年 9 月 11 日に「NoMaps 釧路・根室」を釧路にて開催させて頂きました（北大ロバスト拠点も主催団体の一つ）。大地みらい信用金庫様と北大ロバスト拠点の連携を通じて企画されたビックイベントです。

本学は、カンファレンスのセッション 3 「根釧地域の基幹産業をロバスト化する！」を担当し、瀬戸口工学研究院長をモデレーターとして、当時拠点代表の増田教授、田熊教授、岡本准教授、そして公立はこだて未来大学和田教授から根釧地域の発展にフォーカスした 4 件の発表を行わせて頂きました。札幌以外での初の正式開催であり大変なご苦勞もあったかと思いますが大盛況であったとお聞きしており、今後の深い連携につながるカンファレンスであったと思います。

2020 年度は、12 月 14 日（月）開催予定の NoMaps 釧路・根室に、北大 Ambitious リーダー育成プログラムが参加いたします。コロナウィルス感染対策としてオンラインでの開催となってしまいましたが、盛會を祈念いたしますとともに、根釧地域に新たな風が吹き、新たな取り組みが芽生えることを期待いたします。

6. おわりに

自然の恵みを得ながら自然と一緒に生きている自分をより一層強く感じる時代になってきました。この自然豊かな北海道の“食”や“エネルギー”資源、世界的にも注目すべき資源を活かすも殺すも我々次第です。北海道の各地域には、多様で魅力的な“場”が多くあり、かつ“人”もいます。一歩踏み出して連携して、仲間と知恵を絞って、勇気をもって行動することが、地域価値を高めます。まず“人”が元気に活性化しないと、地域創生はありえません。

北大ロバスト拠点の活動は、小さなフィールドや現地の取組みを大事にし、そこから生まれたものを地域社会に実装し地域価値をまず高めます。そこで養われた“人”、“技術”、“社会システム”は、我々のミッションであるロバスト社会の構築に大きく貢献すると信じております。紙面の関係上、北大ロバスト拠点で行われている数多くの研究紹介や具体的な実証について紹介することができませんでした。お時間のあるときにでも、ホームページ（<https://www.eng.hokudai.ac.jp/others/robust/index.html>）をご覧頂ければ幸いです。

引き続き大地みらい信用金庫様との連携を通じて、研究開発の出口戦略としての企業マッチングを進め、特に根釧地域の活性化につながるべく活動を推進していきたいと考えているところです。今後ともご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

10/30(金) 15:00-16:30

カンファレンス 1

オンライン配信

ローカルプレーヤー -これからの地方の働き方について-

No
Maps

KUSHIRO NEMURO CREATIVE CONVENTION

釧路・根室
2020



ゲスト

一般社団法人ドット道東
代表

中西 拓郎



ゲスト

北海道IoTハッカソン実行委員会
実行委員長

四宮 琴絵



ゲスト

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
NoMaps実行委員会

服部 亮太



モデレーター

ユタカグループ株式会社
エゾプランニングフィールドノート事業

清水 達也

『コロナ禍で働き方が変化する中、釧路・根室が目指すべき姿とは』

新型コロナウイルスの拡大によって、人々の働き方は大きく変わりました。感染のリスクを最小に抑えるために全国の企業でリモートワークが導入され、出勤せずにどこからでも仕事ができる環境が急速に整備される中、釧路・根室をはじめとする北海道の“リモートワークの拠点”としてのポテンシャルに期待が寄せられています。

今年10月30日に行ったNoMaps 釧路・根室2020のカンファレンスでは、こうした今の北海道が置かれている状況を踏まえ、これからの地方の働き方について、4名のローカルプレーヤーの方々に熱いトークセッションを繰り広げていただきましたので、内容を一部抜粋して紹介させていただきます。

—コロナ禍の道東での仕事は？

清水：中西さんのコロナ禍での仕事の状況はいかがでしたか。

中西：今年発売したローカルガイドブック『.dodo』を話題にしていただけで影響もあるのか、「コロナ禍でこれからどうすればよいのか」という相談が急増し、いわば御用聞きのような仕事をたくさんいただきました。また、そうした相談業務の中で、「コロナで仕事の状況は変わってしまったけど、ここ（道東）で生きていくということに変わりはない。ならば、自分はこれから何をすべきなんだろう」ということを、皆が考えなければいけないな、と感じていました。

—コロナ禍の東京での仕事は？

清水：四宮さんは、東京での活動

の状況というのはいかがでしたか。

四宮：2月に釧路で地域クラウド交流会を行ったのですが、その後緊急事態宣言が出てからはずっと釧路に帰れませんでした。東京は特に感染が広がっていたので家からも出られない日が続き、事務所は徒歩圏内にあるのですが念のためリモートワークを行っていました。もともとリモートワーク自体は、地方在住のエンジニアのために2015、16年から実施していました。それがこのコロナ禍になって、都内のメンバーが皆「電車に乗るのが怖い」というようになってたんです。そこで、都内のメンバーもリモートワークにしよう、となったのですが、そのときに「エンジニア職はリモートワークが出来るけど事務職やパートの人はできないのではないか」と思ったんです。電話を

取ってもらおうとか、郵便物を受け取ってもらおうといったことが出来なくなる、というのが頭にありました。でも、思い切って全員リモートワークにしよう、となつてからは、必要なツールを色々そろえました。電話も、webの電話にして、かかってきてもパートさんが自宅でおられるようにしましたし、郵便物は数日おきに経営層の誰かが事務所にチェックしにくくようにしました。また、今年入った地方出身の社員にも、最初は東京の事務所で働いてもらっていたのですが、コロナが始まってからは地元でリモートワークをしてもらっています。世の中はどんどんコロナ禍での働き方にシフトチェンジしつつあるんだなあと肌で感じながら、それと同時に、経営層としてはそういう状況に対応できるようにしていかな

いとこの先、働けなくなってしまうかも、とも感じていました。コロナによって、世の中の考え方がどんどん変わっているな、と改めて実感しています。

一地方に居ながら、都市部で働く

清水：地元でリモートワークが出来るというのは、働く側としては満足度が高そうですね。

四宮：特に子育てをしている人にとっては良いですね。子供が小さいうちは、誰かに手伝って欲しいという機会が多いと思うのですが、地方から上京してきた人だと、周りに手伝ってくれるほど仲の良い人がいなかったりするじゃないですか。そんな中コロナが流行って、唯一頼れるはずの保育園もコロナ感染者が出てしまっただけでなくなったりすると、本当に大変だと思うんですね。だから、身近に助けてくれる人がいる環境下で仕事が出来るとするのは良いことだと思います。

清水：身内の人が近くにいと助かりますよね。四宮さんもお子さんがいらっしゃるんですが、子育てをするうえでリモートワークというのはどうでしたか？

四宮：長い期間学校が休みだったので、子供達は喜んでいましたけど、狭い家に子供が居る状況でリモートワークするのはちょっと厳しいと感じました。東京じゃなくて地方でなら、もっと広い家に住みながらリモートワークをするというのも可能かもしれませんね。それに、地方に住みながらも東京水準の高い賃金をもらえるというのは魅力的だと思います。

清水：地方からどんどん都市部に人口が流れてしまう現状にどこの企業も危機感を抱いていると思うのですが、若いうちから地元で働き、都市部と同等の賃金をもらって、そのまま地元で生活し続けられるというのはとても良いことですね。中西さんの周りは、地方と都市部の働き方の差はどのような感じでしたか？

中西：北海道に居ると、一部の地域を別として密になる機会が少ないの

が良いですね。だから、生活自体の制限はそれほどなくて、ストレスは少なかったと思います。一方東京の友人の話の話を聞いていると、生活上の制限の多さによるストレスが辛かったようで、悲壮感が漂っていました。**清水**：そういった都市部と地方の地域差を見ていると、コロナ禍においては釧路・根室をはじめとして、北海道に何かポテンシャルがあるようにも感じますね。

一コロナ禍の札幌での仕事は？

清水：服部さんは、札幌におけるコロナ禍での仕事の状況はいかがでしたか。

服部：うちの会社は今年の早い段階からテレワークを実施していて、今でも続いています。もともとこちらは東京や海外等、遠隔地との取引が多いので、リモート会議等は普段から実施していました。しかし、オンラインでの会議が短期間でこれほど当たり前になるとは思っていませんでした。以前だと環境が整っていかなくて出来ないという企業が多かったので、その点は便利になったと思います。コロナ禍において一番大きかった仕事は、北海道コロナ通知システムの元となるシステムの作成です。北海道が緊急事態宣言の真っ只中でこれからお店が徐々に再開していくという状況のときに、何かしらのワンクッションが必要だと感じて、自主的にシステムの開発を始めました。この一連の取り組みによって、ITの技術を活用して地域の役に立つことが出来たと感じています。

一NoMaps 札幌本祭を終えて...

清水：今年はコロナで大変な状況の中無事 NoMaps の札幌本祭を終えられましたが、そちらについてはどんな印象を受けられましたか？

服部：NoMaps という言葉は、今現在の“未知の感染症が流行している中で指針が見当たらない（=地図が無い）”という状況のことをよく表していると思うのですが、この NoMaps 札幌ではまさに、これを乗り越える

ユタカコーポレーショングループ (株)エゾプランニング フィールド ノート事業 清水 達也

北海道釧路出身。2015年「フィールドノート」を開業し、フリーペーパー「FIELD NOTE」を創刊。2016年より(株)ユタカコーポレーションへ入社し、事業継続。2020年、(株)エゾプランニングへ移籍し、コワーキングスペースの運営や企画を担当。3児の父でありながら、釧路地域の魅力を探訪するローカルディガーとして活躍。



一般社団法人ドット道東 代表 中西 拓郎

北海道北見市出身。2012年まで千葉県で過ごし、Uターン後は『道東をもっと刺激的にするメディア-1988』等のローカルメディアの運営を手がける。2019年、(一社)ドット道東を設立・代表就任。今年6月には道東のアンオフィシャルガイドブック『.doto』を創刊し、道東の魅力を発信し続けている。



東北海道 IoT ハッカソン実行委員会 実行委員長 四宮 琴絵

北海道釧路出身。Kintoneを使った「システム39」のエンジニア。2016年からリモートワークの推進活動を手がける。同年サイボウズ(株)の事業である「地域クラウド交流会」の第1号オーガナイザーに就任。地方創生活動に勤しみながら、地元釧路のPRを積極的に行っている。



クリプトン・フューチャー・メディア(株) NoMaps 実行委員会 服部 亮太

北海道江別市出身。大学卒業後、スーパーやレコード会社での勤務を経て、2009年、「札幌の今を伝える」をミッションに「Sapporo 6h」を立ち上げる。2014年、クリプトン・フューチャー・メディア(株)に入社。現在は北海道の案件を担当するローカルマネージャーとして、「Domingo」の運営や「NoMaps」事務局としての運営を幅広く手がける。



ための道具や手段について扱っていたという印象でした。道内の企業の中には、元々コロナが流行る前からテレワークに取り組んでいて、ここにきて時代のニーズがマッチしたという企業もたくさんありました。そういった方々というのは、今のコロナの状況だけを見るのではなく、3つも4つも先を見据えて行動しているんじゃないんです。だから、その人たちの知見をたくさん聞いたのほども為になりました。

ーリモートワークの本質を見直す

清水:オンラインでの会議やテレワークがだんだん当たり前になってくる中で、どういうことがこれからの課題だと思いますか。

四宮:リモートワークがこれだけ広がっても、出来ない業種は存在すると思うのですが、そこは問題ではないと思っています。なぜなら、リモートワークをすることには、出来ない業種の人たちが安心して通勤できる環境づくりに協力する、という意義があると思うからです。だから、協力できる業種の人はやればいいし、出来ない業種ならやらなくていい。それが、お互いの為になる選択だと思うので、少しずつ働き方の選択肢として定着してくればいいと思います。ただ、リモートワークの弊害は、雑談が減ることですね。チャットを活用していたんですけど、チャットで雑談するのはなかなか難しいんです。そこで、朝にweb上での自由な“雑談タイム”を30分設けていました。最初は半ば強制的だったのですが、最終的には上手いいったのかなと思います。雑談がないと、メンバーの現況などが分からないという問題があったので、それを解消できて良かったです。

中西:「都市部か地方か」あるいは「リモートワークができるかできないか」という2択問題ではなくて、結局は「どの道を生きたいか、またその道でどう働きたいか」ということなのかな、と思います。働きたいと思える町というのは、大切な友人や好きなお店・場所の存在等、良い

など思える要素が合わさって生まれるものですね。人が住みたい、働きたいと思える町を作る、というのがまずは大切なのではないでしょうか。その上で、リモートワークの必要の有無を考えるべきだと思います。**清水:**リモートワークというのは“目的”じゃなくて、あくまでそこで充実した暮らしや働き方をするための“手段”ですね。

四宮:リモートワークという選択を取って、時間も場所も好きなときに働けたら良いですね。夜型の人なら夜中に仕事をして昼は休む、といった自由な働き方が出来れば、生産性も上がるかと思います。私の会社は最近ワーケーションも導入し始めていて、好きなときに釧路に行って仕事をして、ついでに道東観光をして

職に就けるよう、制度変更を進めている会社は増えてきていると感じています。今後も、特にIT系の会社でそういったところが増えていきそうですね。そうすると、企業としても採用する人のバリエーションを増やせるし、働く側も働き方を選べます。働きたい場所の条件として、自然環境の良さや、子供を育てやすい環境かどうかとか、それぞれ考えがあると思うのですが、都市部よりも地方の方がそれらの条件にはまる可能性が高いように思うので、チャンスかもしれませんね。そうした地方の中で、釧路は積極的に取り組んでいるほうなのかなとは思っています。

ー“人”の要素がカギを握る

清水:服部さんは北海道のローカル



帰ってもらう、という取り組みもやっていますが、社員から好評です。

清水:リモートワークというのは、“個人の充実にもつながるうえに社会にも貢献できる、働き方の選択肢の一つ”というのが新たな姿なのかなと思います。

ー北海道に期待されるのは“働く場所”としての素質

清水:暮らしたいと思う場所で働く、という働き方においては、北海道は大きな可能性を秘めているのではないかと感じているのですが、服部さんはどう思われますか。

服部:地方に住みながらも都市部の

メディアである Domingo の運営もされていますが、そちらの方で関連する話は何かありますか？

服部:最近 Domingo に、道内で活躍するローカルプレイヤーの方々のコラムを紹介する機能を追加しました。というのも、僕は Domingo を通して地域の“解像度”を上げたいと考えているからなんです。例えば、仕事で標茶に行く機会があったとして、ただ行って仕事して帰ってくるだけじゃ、その土地で何の体験・経験も得られません。でも、行った先でその土地に詳しいローカルプレイヤーと会って、彼らと話をすることで「またここに来たい」となるかもしれ

ないですよ。いきなり知らない人に話しかけるのはハードルが高いけど、見たことのある人だったら話もしやすいし、また来たいと思える理由にもなるかもしれない。そういった、また来たい、あるいは住みたいと思える理由をたくさん作れたら良いなと思ってローカルプレイヤーを紹介しています。全国各地の競合地域の中から選ばれるためには、北海道としては元来恵まれている自然に+αで“人”という要素を加えることが重要なのかなと思います。

清水：地域の玄関口に、その地域との関係が密接な人がいれば、「困ったことがあったらこの人に聞けばいい」という風に思えて、その土地との繋がりも生まれますよね。

中西：そこに行きたい理由付けとして、ロケーションは重要だけど決め手にはならないかな、と感じます。だから、住みたいとか遊びに行きたいと思えるきっかけをたくさん作るのが大事だと思っていて、ドット道東の活動としても、あらゆる領域にタッチポイントを作って繋がりを増やしていきたいと思っています。

ーローカルメディアが果たした役目

清水：私が作っている『フィールドノート』や、中西さんが運営してい

る『1988』のようなローカルメディアの登場によって、今まではあまり見えてこなかった地方の情報がどんどん可視化されるようになって、人同士の繋がりも生まれましたよね。特に東北北海道というのは今まで情報の露出が少なく、どういう場所なのかも分かりづらい地域だったと思うのですが、だんだんと情報が出るようになったおかげで、人同士の繋がりも増えましたよね。今日この場でこうして集まったことでこれからの繋がりの可能性も増えたのではないかと思います。

ー最後に...

清水：釧路・根室をはじめとして地方それぞれ課題を抱えている中で、若い世代や自治体、企業に向けて何か伝えたいことはありますか。

中西：僕らのドット道東というのは、主体になることは無くて、あくまで地元の人や自治体、企業の“伴走者”なんです。ですから、道東でこういうことをしたいとか、何か楽しいことをしたいという声があればそこにお力添えできるような、またそういった人同士が繋がるきっかけを作れるような存在でありたいと思っています。

服部：どこで暮らすかということ

考える時には、信頼できる人からの知見や、実際にその地域に行って空気や自然を体感したりして、どんどん地域の解像度を上げることから始めてほしいと思います。

清水：今回の登壇者である中西さん、四宮さん、服部さんのような地域の“顔”役を果たしている方々は、他の地域にもたくさんいらっしゃると思うので、その人たちから知識を得るだけじゃなくて、そこから他の人と繋がることで、これからの地方における活動や働き方に触れて、北海道の持つ可能性を実際に感じ取ってもらえればと思います。

会場：釧路フィッシャーメンズワーフ MOO 隣「EGG」にて



NoMaps 釧路・根室 2020

高校生ビジネスコンペティションを開催しました

高校生ビジネスコンペティションの目的

釧路・根室管内の高校生がアントレプレナーシップ（起業家精神）を学び、将来のふるさとへ熱い想いをもちながら、当地域の産業振興、活性化に資するビジネスプランを創造する機会を通じ、地域の人材育成を図ることを目的とする事業で、昨年の第一回に引き続き今年で二回目となります。

開催概要

高校生数名で1チームを作り、現状の課題を解決することで見えてくる新たなビジネスのプラン（企画書）を作成します。また、プレゼンテーションを動画で撮影し、企画書と動画を提出します。

ビジネスプランの作成にあたっては、事前に専門家によるビジネスプラン・プレゼンテーションの授業（講義）DVDを配布し、DVDにてビジネスプラン作成の考え方、手順、作成方法等について学んでから取り組みます。



応募資格・募集

- 釧路・根室管内の各高校によるチームが対象（チーム数・人数制限なし、一人でも可）
- ◎エントリー締切：9/18(金)
- ◎企画書・動画提出締切：10/9(金)

募集テーマ

- 分野を問わず、現状の課題を抽出し、それを検討することでビジネスの種（シーズ）を見出し、新たなビジネスの可能性を探ります。ビジネスのマーケット（売り先）は地域に限らず広く国内外を対象とします。

審査・表彰

- 提出された企画書・動画について、9名の審査員による審査。最優秀賞、優秀賞、ビジネスアイデア賞、審査員特別賞、ビジネスみらい賞を設け、各賞に賞品、副賞を授与します。



応募結果

霧多布高校	1チーム	10名	9校25チーム98名という、去年を大きく上回る応募があり、高校生ならではの斬新・柔軟な発想が数多く見られました。審査にあたっては9名の審査員に採点・講評をいただきました。
釧路江南高校	6チーム	6名	
釧路商業高校	5チーム	14名	
釧路明輝高校	5チーム	25名	
標茶高校	2チーム	14名	
白糖高校	1チーム	5名	
中標津農業高校	1チーム	11名	
根室高校	3チーム	12名	
武修館高校	1チーム	1名	

No Maps

KUSHIRO NEMURO CREATIVE CONVENTION
釧路・根室
2020



審査発表・表彰式（オンライン開催）

11月4日（水）の審査発表・表彰式は、釧路プリンスホテルの本会場と各高校をオンラインで繋いだリアルタイム配信方式で実施しました。授業の都合で参加できなかった高校もありましたが、多くの学生・担当教員の皆様にご参加いただきました。

最優秀賞：標茶高校 牛乳班・スポーツゼミ共同プロジェクト

優秀賞：武修館高校 露灯-cantela-(カンテラ)

ビジネスアイデア賞

：標茶高校 創生ゼミ

：中標津農業高校 農産加工研究班

審査員特別賞

：釧路商業高校

M&F

：根室高校

地域貢献グループ3班ラプターズ

：釧路明輝高校

地元愛

：釧路江南高校

千葉玲奈

：根室高校

地域貢献グループ1班V6

ビジネスみらい賞

：霧多布高校

地域ビジネス科

：釧路江南高校

立花愛璃

：釧路江南高校

富山愛羅

：釧路江南高校

泉 琴音

：釧路江南高校

真野佳久也

：釧路江南高校

齊藤拓磨

：釧路商業高校

ぐーらん

：釧路商業高校

すずき's kitchen

：釧路商業高校

遠藤²

：釧路商業高校

946 盛り上げ鯛

：釧路明輝高校

品川さんと6人

：釧路明輝高校

We♥business

：釧路明輝高校

2年4組

：釧路明輝高校

ボーダーライン

：白糠高校

MET-K2

：根室高校

地域貢献グループ2班ガヤチーム

—審査員—

審査員長

クリプトン・フューチャー・メディア(株)

代表取締役 伊藤 博之氏

実行委員長

釧路工業技術センター センター長 荒井 誠氏

実行委員

北海道教育庁釧路教育局 局長 川端 雄一氏

実行委員

北海道教育庁根室教育局 局長 松田 俊也氏

実行委員

北海道教育大学釧路校

キャンパス長 浅利 祐一氏

実行委員

釧路公立 大学 地域経済研究センター

センター長 中村 研二氏

実行委員

釧路工業高等専門学校 校長 小林 幸夫氏

事前授業講師

(株)D2garage コミュニティマネージャー 山崎 清昭氏

事務局長

大地みらい信用金庫 常務理事 大越 秀一

日時：2020年11月4日（水）16:00～17:30

釧路プリンスホテル2階「鶴の間」から生配信

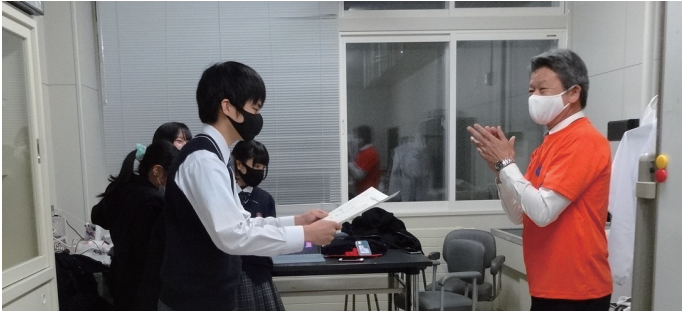
【当日の次第】

1. 開会の挨拶 NoMaps 釧路・根室2020 実行委員長 荒井 誠氏
2. 表彰の概要説明
3. 審査員長講評 NoMaps 実行委員会 実行委員長 伊藤 博之氏
4. 各賞の発表
 - ・最優秀賞 1チーム ・優秀賞 1チーム
 - ・ビジネスアイデア賞 2チーム ・審査員特別賞 5チーム
 - ・ビジネスみらい賞 16チーム
5. 閉会の挨拶 NoMaps 釧路・根室2019 実行委員長 遠藤 修一



最優秀賞

標茶高校 牛乳班・スポーツゼミ共同プロジェクト 「標茶の資源を活かした体験活動」



最優秀賞に輝いたのは、標茶高校 牛乳班・スポーツゼミ共同プロジェクトのテーマ「標茶の資源を活かした体験活動」です。表彰式当日は、当金庫のスタッフが学生には秘密で標茶高校を訪れ、札幌からリモートで参加していた伊藤審査員長が表彰状を読み上げた後に、教室を突撃して賞状を渡すというサプライズがありました。生配信の映像には学生が驚いて歓喜の声をあげる姿が映しだされ、喜びがひしひしと伝わってきました。

当チームには、釧路特産品の「ふき紙」を使用した賞状と、賞品として「クリプトン・フューチャー・メディア(株)見学ツアー」が贈られました。

ビジネスプランの概要

◎ビジネス概要

観光客を対象とした標茶町ならではの自然、文化体験（アドベンチャーツーリズム、トレイルツーリズム）の提供。体験を複合し標茶町を満喫してもらうプランの提案。

コンテンツ内訳：標茶町探索、スポーツ体験、農業・加工体験、アイヌ文化体験、星空環境、湿原のガイド、森林セラピー

◎ビジネスを思いついたきっかけ

標茶町の課題を分析したところ、近隣の釧路市や弟子屈町に比べ観光客が少ないことや、人口が減少していることがあげられた。そこで、標茶町にはたくさんの魅力があるのにそれらを観光資源として活かしてきていないのではと感じ、なんとかして標茶町の魅力を発信し、人を呼び込むことはできないかと考えた。

◎課題解決策・ビジネスの効果等

標茶町の複合的な満喫プランを提案し、インターネット等を通じて海外の観光客に発信する。

町内で体験活動を行うことによる副次的効果として、特産品の売り上げ増加、雇用の増加（ガイド、サービス業、タクシー等）、標茶町への居住希望者の増加など。

◎ビジネスサービスの内容

標茶町内の自然体験・・・農業体験（畑作業体験、酪農体験）、加工体験（チーズやアイスなどの乳製品作り体験）、町内巡り（標茶町ウォーキングマップを活用した町内散策、飲食店・土産屋巡り）、自然体験（湿原のガイド、軍馬山散策、倒木を利用した木工）、文化体験（アイヌ文化体験）

農業体験では、畜産の仕事を体験してもらいながら、標茶町の魅力をPRする。加工体験では牛乳から乳製品を作るまでを体験してもらい、乳製品の消費拡大も狙う。町内ガイドでは標茶町ウォーキングマップを活用し、街を散策しながらそれに記載されているお店を利用してもらい、町内の経済を回すことに貢献する。長期滞在者にも一つの体験だけでなく、さまざまな体験を満喫してもらい標茶町の魅力をたくさんPRする。

例)・農業体験「牛乳からチーズを作る！世界に一つだけのオリジナルピザを！」・・・牛乳からチーズに加工し、ピザ作りを体験する。

・農作業＆自然体験「大自然でキャンプ！収穫した野菜を使ったBBQ！」・・・自分達で収穫した野菜を使い、星空の下BBQを楽しむ。

外国人材活用の現状

一事業継続、職場活性化の鍵になり得る外国人材—
地域みらい創造センター 次長 小笠原創—

当金庫が本店を有する根室市内においても、就業人口の実に約2%を占める約250人の外国人技能実習生が生活しているなど、全国的に外国人材の活用が増加しています。今回は、外国人材に関する制度の基礎知識や実情等について、主に技能実習生および特定技能人材を中心に紹介します。

技能実習生の全国的な活用動向

全国的な人手不足を背景に、技能実習生（以下「実習生」）を含む外国人材の活用は、増加の一途を辿っており、令和元年10月末現在の外国人労働者数は、前年比約20万人増の166万人にまで増加しています。

ひと口に外国人労働者といっても、※在留資格毎にその属性が異なります。実習生は「外国人技能実習制度」に基づき、「技能実習」という在留資格を持って日本に居住しています。令和元年末の実習生数は、その7年前の15万人から2.7倍の41万人に達しています。技能実習制度とは、1993年に開始された途上国の人材が最長5年間、日本の進んだ技能を学び母国に技術移転を図る国際協力の制度です。農業、漁業、建設、食品製造、繊維・衣服関係、機械・金属関係、介護等の幅広い業種が対象となっています。活用の好事例として、若い実習生の活用により職場が活性化し、生産性が向上した例や、海外展開のアイデア発想・足がかりの構築ができたなどの例も多くあります。

既述のとおり国際協力の制度であるため、受入企業等は実習生を労働需給の調整に利用してはならないとされていますが、特に生産・製造現場などの人手不足の業種において、貴重な働き手となっているのが実態です。

外国人材の活用実績のある企業では、外国人材の存在が既に不可欠になっている声も多く聞かれます。

※在留資格とは、外国人が日本に在留する間、一定の活動を行うことができること、または、一定の身分や地位を有する者としての活動を行うことができることを示す「出入国管理及び難民認定法」上の資格をいいます。

実習生の国籍と動向

実習生の国籍の内訳は、令和元年末ではベトナム53.2%、中国20.0%、フィリピン8.7%、インドネシア8.6%、タイ2.8%となっています。傾向としては、ベトナム人が近年急増する一方、かつて最も多かった中国人が母国の所得上昇を背景に減少傾向にあります。実習生の国籍による多寡は、母国の所得水準と関係が強く、ベトナム人の実習生も母国の経済成長に伴って、将来的には減少してくることが予想されます。当面は、東南アジア人の割合が高まり、その後は南アジアの人材が増えることが予想される声が業界関係者からは聞かれます。

なお、実習生の報酬は、日本人が従事する場合の報酬

の額と同等以上であることが求められています。加えて大多数の受入企業は、契約先の監理団体に対して実習生一人につき月額数万円の監理費を支払う必要があり、実習生の活用は、日本人の活用に比べ費用が低いとは限りません。

道東での外国人材の活用状況

道によると、令和元年末の根室管内、釧路管内の実習生受入数は、それぞれ774人（前年比51.2%増）、952人（同25.9%増）と高い伸びを示しています。業種別では、両管内とも食料品製造業が最も多く、農業、建設関連工事業が続きます。なお、全国の市町村のうち人口に占める実習生の割合が高い上位100自治体には厚岸町、標津町、別海町が入っていると報じられています。大都市への集中の進展もあり、道東では10年後に人口が約2割減少する政府推計が出されている自治体もあります。事業の継続・安定のため、さらなる機械化やIT活用とともに、外国人材活用の必要性がさらに高まってくると思われます。

技能実習に関する問題、トラブル

ほとんどの受入企業は、実習生を活用するため実習生の母国にある「送出機関」と日本国内の「監理団体」という組織を通じて受け入れる「団体監理型」という独特のスキームを用いる必要があります。この場合、受入企業は監理団体と契約し、監理団体が契約している海外の送出機関から実習生を受け入れることとなります。

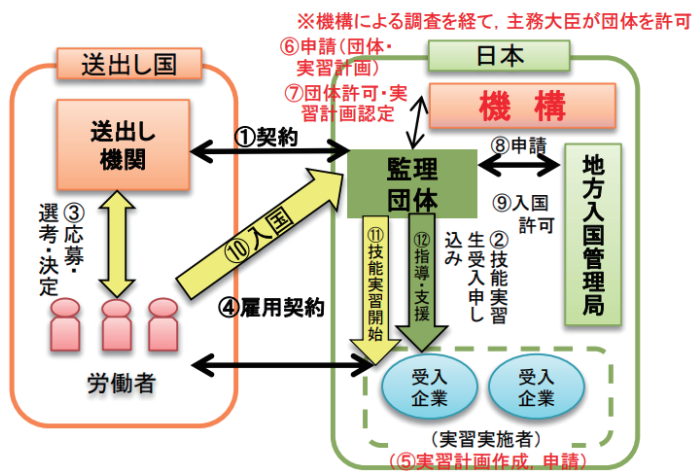
この中で、「高収入の出稼ぎの紹介」というような言葉で実習生候補者から高い手数料を取ったうえで、送出機関に紹介するブローカーが多く存在します。この手数料が実習生や家族の借金となっているケースが多く、問題となっています。



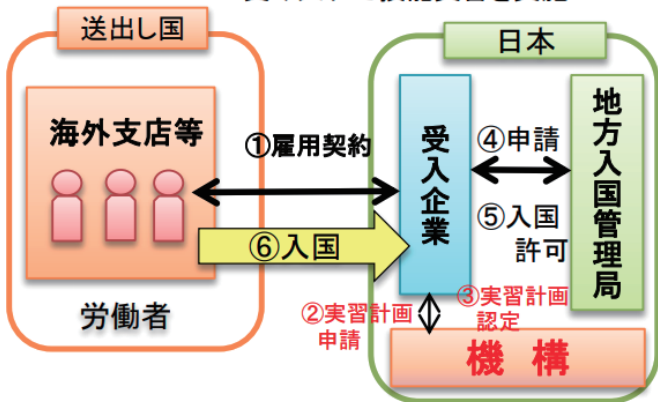
技能実習制度の受入機関別のタイプ

(出所) 出入国在留管理庁資料より抜粋

【団体監理型】 非営利の監理団体(事業協同組合、商工会等)が技能実習生を受入れ、傘下の企業等で技能実習を実施



【企業単独型】 日本の企業等が海外の現地法人、合併企業や取引先企業の職員を受け入れて技能実習を実施



監理団体の選定

送出機関、監理団体には問題がある組織が多いと言われています。筆者は前職において、送出機関、監理団体、受入企業、実習生に直接話を聞く機会がありましたが、組織により受入企業および実習生へのサポートにおいて、大きな差があるのが実情です。

企業が実習生の受入を開始する際には、良い監理団体を選定することが極めて重要です。監理団体は協同組合などの「本邦の営利を目的としない法人」でなければ政府から許可が得られません。しかしながら、監理団体の中には実態として利益優先となっている組織が多くあると指摘されており、面談や口コミから利益優先と感じられる監理団体には注意が必要です。もっとも、受入企業から受け取る「監理費」を相応の金額とし、しっかりと細やかに対応する監理団体が存在する一方で、一見低い監理費の設定ながらも法律で定められた最低限の対応しかしない、あるいは最低限の対応もしない監理団体も多くあります。監理費の水準だけでなく、可能であれば受入前・受入後の対応レベルについて、既にその監理団体と契約している受入企業に確認すること等が重要です。

受入企業の違法な対応と実習生の失踪

実習生は、入国前から特定の受入企業等で実習を積むという前提で「技能実習」という在留資格を取得でき、基本的には日本において転職はできません。実習生が日本語の壁を抱え、転職ができない中、強い立場に立ちやすい受入企業による賃金不払い、不適切な長時間労働、パスポート・在留カードの取り上げ、その他のパワーハラスメント等の問題も多く発生しています。

さらに、こうした実習前と後のギャップ、借金と収入のバランスによる生活苦等から発生するのが実習生の失踪です。平成30年には失踪者数は9,052人に上っています。失踪者は、既述のとおり失踪前の受入企業で実習するという限定付きで日本での在留が認められているため、在留カードを偽装し他社で勤務する、犯罪集団に入るなど、いずれにしても違法な道に進んでいくことになります。

新在留資格「特定技能」の導入

技能実習制度は、国際協力という目的と実態の乖離や既述のような独特なスキームに起因する問題を内包しており、国内外から批判を受けています。これを受け、令和元年4月から導入されたのが新たな在留資格の「特定技能」です。

特定技能の制度は、深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある14の産業分野※において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくものです。特定技能では、一定の条件下で元技能実習生も特定技能人材として採用することができます。建設業と造船・船用工業のみ在留期間の更新ができますが、その他の産業分野では最長5年間です。また、実習生と大きく異なるのは、特定技能人材は同じ産業分野の企業に転職が可能という点です。

政府は令和元年の特定技能導入時には、5年間で最大35万人の特定技能人材が活躍するとしていましたが、各国政府等との調整難航やコロナ禍により、令和2年6月末の特定技能人材は約6千人と伸び悩んでいます。特に地方の企業を中心に、元実習生の特定技能転換ケースは別として、外国人を最初から特定技能人材として活用するのは離職リスクが高いうえ、制度上ケアや管理が難しいことから、特定技能と比べ技能実習のメリットが多いという意見を多く聞きます。今のところ、政府は技能実習制度の廃止を予定しておらず、当面は人手不足の業種において両制度が併用される見通しです。

※介護、ビルクリーニング、素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業、建設業、造船・船用業、自動車整備業、航空業、宿泊業、農業、漁業、飲食物品製造業、外食業

外国人材の獲得競争

近年、実習生についても、活用したい人材が十分に確保できなくなっているという指摘されています。

理由としてよく聞かれるのは、技能実習生の過半を占める中国人やベトナム人の人材の質の低下です。

これは、一つには、所得向上により優秀な人材が海外で就労するメリットが低下していることがあります。もう一つは、日本の受入国としての競争力が相対的に低下していることがあります。

韓国や台湾などをはじめとして、実習生の母国から労働者を受け入れている国は多くあり、競争が激しくなっています。外国人にとっては、多くの日本人が考えているほど日本は就労先としての魅力は高くないといわれています。収入面でも他の先進国での就労と比べて、日本が特に高いということはありません。ここ数年、建設業などでは実習生の確保も容易ではなくなっているという声も多く聞くようになりました。

外国人材活用の継続性確保のために

実習生は、受入地域、受入企業について、SNS や口コミを通じて評価を発信します。例えば受入企業が継続して同じ監理団体から受け入れる場合、基本的に同じ送出国から候補者を募ることになり、候補者は、受入地域や受入企業に対する先輩の評価を参考にすることになります。

受入企業は、勤務環境だけでなく、生活環境も整える必要がありますが、継続的に優秀な実習生を確保するため、実習生が不便に極力感じないよう通勤や買い物のサポートも行っている例も多くあります。また、母国の家族を訪問する、社員旅行などの社内イベントを実施するなど、家族的な付き合いも重要で、文化や教育の異なる国からきた実習生の生活トラブルはどうしてもある程度発生してしまうようですが、異なるバックグラウンドを持っているという理解が必要です。

日本人同様、実習生にも公共交通機関が発達した地域

や娯楽が多い地域が魅力的に映ることが多いようです。こうした点を変化させることは困難ですが、継続的に優秀な外国人材を確保していくためには、各受入企業の努力だけではなく、自治体による受入環境改善への取り組みも重要です。

最後に

今回は詳細を記載できませんが、主な外国人材の中には、実習生や特定技能人材の他にも、外国人留学生が、就業可能時間等の制限がありながらもアルバイトとして貴重な働き手となっている地域も増加しています。また、高い技術を持ち、専門性の高い職種に就いている「高度（外国）人材」と呼ばれる人材の活用も増加しています（「技術・人文知識・国際業務」等の在留資格を保有する外国人）。

これから初めて外国人材の活用を検討される企業においては、各社の課題や戦略に合わせて、採用する外国人材の属性をまず選定することになります。なお、現在、コロナ禍を受けて、外国人材の入国・帰国が難しくなっていますが、少しずつ再開してきているようです。

日本において、人口減少・高齢化に伴い外国人材の活用が増加する中、外国人との共生意識の醸成が必要です。筆者の友人の外国人女性が、今年、日本でアパート入居を「外国人だから」という理由で断られショックを受けていました。外国人の犯罪が報道される中、この大家の方を批判するのも適切ではないと思いますが、日本人と外国人が相互理解を深めるとともに、犯罪者が出やすくなるような構造的問題をなくし、上記のような事象が少ない社会にできたらと思います。

※外国人材の活用について、もう少し詳細な情報が欲しい等のご要望がございましたら、当金庫地域みらい創造センター（TEL:0153-24-4104）までお気軽にご連絡ください。

(出所) 出入国在留管理庁資料より抜粋

	技能実習 (団体監理型)	特定技能 (1号)
関係法令	外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律 / 出入国管理及び難民認定法	出入国管理及び難民認定法
在留資格	在留資格「技能実習」	在留資格「特定技能」
外国人の技能水準	技能実習 1号: 1年以内、技能実習 2号: 2年以内、技能実習 3号: 2年以内 (合計で最長 5年)	通算 5年
入国時の試験	なし	相当程度の知識又は経験が必要
送出国	なし (介護職種のみ入国時 N4 レベルの日本語能力要件あり)	なし
監理団体	外国政府の推薦又は認定を受けた機関	なし
支援機関	あり (非営利の事業協同組合等が実習実施者への監査その他の監理事業を行う。主務大臣による許可制)	あり (個人又は団体が受入機関からの委託を受けて特定技能外国人に住居の確保その他の支援を行う。出入国在留管理庁による登録制)
外国人と受入機関のマッチング	通常監理団体と送出国を通して行われる	受入機関が直接海外で採用活動を行い又は国内外のあつせん機関等を通じて採用することが可能
受入機関の人数枠	常勤職員の総数に応じた人数枠あり	人数枠なし (介護分野、建設分野を除く)
活動内容	技能実習計画に基づいて、講習を受け、及び技能等に係る業務に従事する活動 (1号) 技能実習計画に基づいて技能等を要する業務に従事する活動 (2号、3号) (非専門的・技術的分野)	相当程度の知識又は経験を必要とする技能を要する業務に従事する活動 (専門的・技術的分野)
転籍・転職	原則不可。ただし、実習実施者の倒産等やむを得ない場合や、2号から3号への移行時は転籍可能	同一の業務区分内又は試験によりその技能水準の共通性が確認されている業務区分間において転職可能

根釧の経済概況（令和2年9月末基準）：根室管内

水産：管内の水揚げ数量合計は前年同期比19%減少、金額は同27.5%減少。

①根室管内総水揚げ（各年1～9月）

	根室市		根室管内3町		根室管内合計			
	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 2	31,957	9,488	43,089	9,141	75,046	▲19.0%	18,629	▲27.5%
R 1	42,039	12,166	50,556	13,528	92,595	▲7.2%	25,694	▲6.9%
H30	51,993	15,235	47,826	12,365	99,819	+17.9%	27,600	▲3.7%
H29	43,306	15,246	41,330	13,407	84,636	▲18.1%	28,653	▲20.9%
H28	51,673	18,063	51,630	18,179	103,303	▲1.9%	36,243	▲4.4%

②秋サケ漁(根室管内・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 2	2,533	▲30.9%	1,868	737
R 1	3,667	+20.4%	2,145	585
H30	3,046	+11.2%	2,037	664

- ・R2年9月末時点の数量は2,533 t で前年比30.9%減少。目廻りは3.0 kg を上回るものの過去5年と比較し、数量・金額ともに最低の実績で推移。11月末の終漁でも漁獲量41%減の4,827 t と1989年以降で過去最低となった。

③サンマ漁(根室・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 2	3,226	▲46.3%	1,403	435
R 1	6,010	▲74.9%	2,443	406
H30	23,913	+55.5%	6,026	252

- ・水揚げ数量は3,226 t と記録的な不漁。魚体も小さく、低調なH29年の数量を大幅に下回る数量で推移。11月末の水揚げ量は、昨年まで日本一の根室・花咲港が46%減の8,615 t にて推移。

酪農：根釧管内生乳生産量は、前年実績を1.9%上回る。

根釧管内生乳生産量（各年4～9月）

年度別	数量 (t)	前年比
R 2	693,347	+1.9%
R 1	680,329	+1.8%
H30	668,134	▲0.1%
H29	668,559	▲1.3%

- ・根釧管内生乳生産量の上半期（4～9月）実績は693千 t と前年同期比1.9%増加。☑
- ・根室・釧路管内ともに生乳生産は堅調であり、前年同期比増産推移。
- ・十勝・北網地区も同増加となり、北海道全体では2,024千トンで同2.5%の増加。

地区別	数量 (t)	前年比
全道	2,024,636	+2.5%
十勝	637,668	+2.9%
北網	302,963	+4.1%
根室	421,497	+2.4%
釧路	271,850	+1.2%

今後の需給動向等

- ・4月以降については新型コロナウイルス感染症の影響から休校等による給食需要の減少や業務用需要の減少により需給調整を余儀なくされたものの、徐々に学校再開やG o T o トラベル等の政策により消費動向は回復。しかしながら12月に入り、感染拡大が強まり、飲食店の時短営業や全国一斉にG o T o トラベルが停止されるなど、再び需要低下の環境にある。

○R2年根室管内月別伸び率(前年同月比・%)

4月 +4.1%	5月 +3.4%	6月 +3.0%
7月 +2.9%	8月 +2.6%	9月 +2.1%

家畜取引：根室市場は取引頭数で前年同期比6.4%増加、金額は同13.0%減少。別海市場は取引頭数は増加、金額は前年同期比減少。

□根室市場取引高（各年4月～9月）

	取扱頭数(頭)	前年比	金額(百万円)	前年比	単価(千円)
R 2	20,138	+6.4%	4,896	▲13.0%	243
R 1	18,934	+2.3%	5,626	▲6.2%	297
H30	18,512	▲1.1%	6,001	+9.4%	324

□別海市場取引高（各年4月～9月）

	取引頭数(頭)	金額(百万円)
R 2	4,586	747
R 1	4,268	907
H30	4,284	1,036

□種類別価格(根室市場)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
初生ホルスタイン社 (単位：千円)	94.7	108.7	118.7	86.7	80.5	66.8
肉牛ホルスタイン経産牛 (単位：千円)	170.6	189.5	219.2	199.0	186.3	182.3

貿易：輸出は前年比増加、輸入は前年同期比減少。（R2年1～9月貿易実績・根室税関支所発表・()内前年同期比）

- 【総額】38億44百万円(▲11.1%) 外国貿易船の入港隻数236隻(前年比2隻減少)
- 【輸出】109百万円(+20.6%) 冷凍魚介類(11.7百万円 +51.6%)、一般機械(4.1百万円、▲88.0%)
- 【輸入】37億34百万円(▲11.7%) 生鮮魚介類(34億円、▲11.0%)、冷凍魚介類(2億28百万円、▲3.3%)
- ・輸出…一般機械が減少するも、輸送用機器が増加となったため、全体として増加。
- ・輸入…魚介類調製品が増加するも、生鮮魚介類が減少となったため、全体として減少。

根釧の経済概況（令和2年9月末基準）：釧路地区

■釧路港は、前年に続きイワシが好調もサンマは前年同期比97%減少。全体の水揚げ数量は同40.1%の増加

①釧路港総水揚げ高（各年1～9月）

	全体			
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 2	129,899	+40.1%	5,085	+6.5%
R 1	92,686	+22.2%	4,773	▲2.2%
H30	75,819	▲15.0%	4,881	▲22.1%
H29	89,230	+31.4%	6,273	+7.2%
H28	67,869	▲14.2%	5,847	▲26.7%

	（うち、スケソ）				
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減	単価(円/kg)
	26,170	+25.2%	1,122	▲10.4%	43
	20,899	▲1.6%	1,252	+0.5%	60
	21,238	▲25.8%	1,247	▲13.9%	59
	28,639	+3.5%	1,448	▲4.6%	51
	27,646	▲17.4%	1,518	▲25.9%	55

②釧路港魚種・漁法別水揚げ高（R2年1～9月）

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	1	▲97.4%	4	▲82.0%
サケ・マス	22	▲56.9%	22	▲30.3%
スケソ	26,170	+25.2%	1,122	▲10.4%
マダラ	4,554	+0.2%	711	▲11.8%
ホッケ	129	+279.4%	10	▲34.1%
イカ	156	+403.2%	77	+1085.1%
カレイ類	254	▲40.0%	60	▲27.3%
イワシ	97,589	+52.2%	2,727	+39.1%
サバ	0	▲100.0%	0	▲95.5%

③厚岸港水揚げ高（各年1～9月）

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 2	7,252	+2.5%	1,743	▲11.2%
R 1	7,077	▲30.3%	1,963	▲33.3%

④厚岸港魚種別水揚げ高（R2年1～9月）

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	59	▲77.5%	71	▲59.5%
秋サケ	0.7	▲91.7%	0.2	▲95.4%
あさり	1,086	+31.5%	483	+37.7%
かき	433	▲13.3%	378	▲11.2%
その他	5,085	▲0.4%	666	▲19.4%

釧路港水揚げ

- 1～9月の合計は、数量が前年同期比40.1%増加、金額は同6.5%増加。魚種別でみると、サンマは前年同期比数量97.4%減、金額で同82.0%と大幅減少。イワシは豊漁が続く、数量は前年同期比52.2%増加、金額は39.1%増加。イカは低調だった昨年からやや回復。数量・金額ともに前年を上回る。

厚岸港水揚げ

- 1～9月の合計は、数量7千tで前年同期比2.5%の増加。金額は17億43百万円で同11.2%の減少。・魚種別でみると、サンマの水揚げが低調に推移し、数量が59tで前年同期比77.5%の大幅な減少。あさは数量・金額ともに前年同期比増加。かきは数量・金額ともに減少推移。 ☒

製紙：市内製紙2工場の上半期（4～9月）生産量は270千トンと前年比11.6%減少。

需給操業環境

- 市内2工場における7～9月生産量は142千トンで前年同期比3.3%増加。今期2工場の生産内訳は、新聞用紙21千トンで前年同期比44.4%増加。印刷用紙10千トンで同5.3%増加、段ボール原紙101千トンで同7.6%増加、国内向け産業用紙は3.5千トンで同68.3%減少、輸出向け産業用紙は5.5千トンで同18.5%増加。
- 2020年11月5日、日本製紙は釧路工場における紙の生産を2021年8月に終了すると発表。新聞用紙と印刷用紙はIT化の進展により構造的な需要減少が続いているなか、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞も拍車をかけた。同社従業員約250人とグループ企業の約250人は、グループ内で配置転換される予定。釧路市では撤退による釧路管内の他の事業者への影響額が少なくとも84億8千万円（12月7日速報値）に上るとの調査結果を公表。また産業連関表等から市全体の影響額は約400億円で、市内総生産額6,300億円の6%が失われるとの試算を算出した。

観光：令和2年4～9月の観光客入込み数

- 釧路市の令和2年度（令和2年4～9月）の観光客入込客数は、対前年比61.4%減少の約128万7千人（約204万9千人減少）と大幅な減少となり、現在の統計方法になった05年度以降で最低となる。7月以降はGOTOキャンペーン等により回復傾向にあったものの、12月に入り新型コロナウイルスが拡大し、GOTOキャンペーンの一斉停止など、回復には難しい環境となる。
- 釧路総合振興局は釧路管内上期の観光客入込は266万4100人で前年同期比50.6%の減少と発表。また、観光入込客のうち道外客は同66.2%減の65万8000人で、道内客は同42%減の201万3300人。訪日外国人の宿泊客数は1016人で前年同期に比べ、7万2227人（98.6%）の減少。
- コロナ禍の中、アウトドア需要が伸びており、釧路観光コンベンション協会と民間事業者によるグランピング事業の実証実験が行われるなど、新たな釧路の魅力創出への動きも出ている。

貿易：輸出・輸入ともに前年同期比減少。

(R2年1～9月貿易実績・釧路税関支所発表・()内前年同期比)

【総 額】 622億43百万円(▲13.1%) 釧路港外国貿易船入港数301隻（前年比2隻減少）

【輸 出】 74億1百万円(▲16.8%)

・魚介類(15億62百万円・▲35.9%)、紙類同製品(24億10百万円・▲5.2%)、鉄スクラップ(20億36百万円・▲18.6%)

【輸 入】 548億41百万円(▲12.8%)

・飼料(106億87百万円・+14.9%)、とうもろこし(132億36百万円・▲4.6%)、肥料(119億54百万円・▲4.9%)

・石炭(42億10百万円・▲44.3%)、魚介類(29億76百万円・▲12.4%)

全国・全道の経済概況（令和2年9月末基準）

住宅着工戸数

公共工事請負高

企業倒産動向

訪日外国人延宿泊客数

全国

■R2年4～9月の着工戸数は413千戸で前年同期比11.4%減少。内訳をみると持家、貸家、給与、分譲すべて前年同期比減少。月別においてもすべての月で減少。

月別			
	着工戸数(戸)	前年比	
R2年 9月	70,186	▲9.9%	
R2年 8月	69,101	▲9.1%	
R2年 7月	70,244	▲11.3%	
R2年 6月	71,101	▲12.8%	
R2年 5月	63,682	▲12.3%	
R2年 4月	69,162	▲12.9%	
R2年4～9月計			
	413,476	▲11.4%	
内訳			
持家	▲14.2%	貸家	▲11.0%
給与	▲3.2%	分譲	▲9.0%

■R2年度上期は8兆3,392億円で前年同期比5.8%増加。月別では、6月・8月以外で前年同期比を上回り、総体の請負金額も増加推移。

月別			
	工事請負契約額(億円)	前年比	
R2年 9月	18,566	+11.5%	
R2年 8月	12,542	▲5.4%	
R2年 7月	17,197	+12.7%	
R2年 6月	15,408	▲0.3%	
R2年 5月	10,223	+9.9%	
R2年 4月	9,452	+6.0%	
年度別			
	工事請負契約額(億円)	前年比	
R2年 4～9月	83,392	+5.8%	
R1年 4～9月	78,841	+12.8%	
H30年 4～9月	69,897	▲7.2%	

■R2年度上期の倒産件数は3,956件で前年同期比5.2%減少。負債額は6,012億円で同6.5%増加。

各年(4～9月)	年半期毎推移 (金額単位：億円)			
	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R2年	3,956	▲5.2%	6,012	+6.5%
R1年	4,172	+4.0%	5,646	▲27.1%
30年	4,012	▲4.4%	7,749	+1.7%
29年	4,197	+3.4%	7,618	+12.8%
28年	4,059	▲3.7%	6,756	▲20.4%

■R1年度の延宿泊客数は、前年同期比22.7%増加。四半期別推移では1月～6月まで大幅な減少推移。国籍別では、第1位の中国に続いて台湾、香港と続く。

四半期別推移			R2年1～3月期 国籍別構成比	
年・四半期	(千人)	前年比	国籍	シェア
R2年 4～6月	511	▲98.1%	中国	27.9%
R2年 1～3月	15,685	▲37.1%	台湾	15.5%
R1年 10～12月	28,508	+19.2%	香港	8.4%
R1年 7～9月	28,548	+17.1%	アメリカ	6.8%
年別推移			韓国	5.8%
R1年	115,656	+22.7%	その他	35.6%
H30年	94,275	+18.3%	合計	100%

全道

■R2年4～9月の着工戸数は18千戸で前年同期比6.3%減少。内訳をみると持家、貸家、給与、分譲すべて前年同期比減少。

月別			
	着工戸数(戸)	前年比	
R2年 9月	2,753	+0.5%	
R2年 8月	3,756	+17.9%	
R2年 7月	2,868	▲16.7%	
R2年 6月	3,154	▲18.4%	
R2年 5月	2,804	▲5.9%	
R2年 4月	2,950	▲10.9%	
R2年4～9月計			
	18,285	▲6.3%	
内訳			
持家	▲10.9%	貸家	▲4.5%
給与	▲10.8%	分譲	▲0.3%

■R2年度上期は8,025億円で前年比6.4%増加。発注機関別においては、国と地方公社を除き、請負金額は全て前年同期比増加となる。

年別		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
R2年 4～9月	802,543	+6.4%
R1年 4～9月	754,235	+12.2%
H30年 4～9月	672,515	▲3.0%
発注機関別		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
国	239,181	▲2.3%
道	175,964	+3.2%
道内市町村	233,861	+5.6%
独立行政法人等	90,705	+49.5%
地方公社	896	▲56.9%

■R2年度上期の倒産件数は95件で前年比12.0%減少。負債額は98億円で同33.3%減少。

各年(4～9月)	年半期毎推移 (金額単位：億円)			
	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R2年	95	▲12.2%	98	▲33.3%
R1年	108	+1.9%	147	+48.5%
30年	106	▲19.7%	99	▲57.5%
29年	132	+1.5%	233	+32.4%
28年	130	▲3.0%	176	▲27.4%

■R1年度の延宿泊客数は7,536千人で前年度比10.8%の減少。R1年度の国籍別では、中国のシェアが27%と最も高く、次いで台湾、韓国と続く。

R1年度下期 月別推移			R1年度下期 国籍別		
月	(千人)	前年比	国籍	(千人)	シェア
3月	74	▲88.2%	中国	2,002	26.6%
2月	665	▲37.6%	台湾	1,546	20.5%
1月	1,145	+21.5%	韓国	793	10.5%
12月	1,090	+18.7%	香港	664	8.8%
11月	431	+2.9%	タイ	518	6.9%
10月	552	▲5.3%	シンガポール	409	5.4%
年度別推移			オーストラリア	278	3.7%
R1年度	7,536	▲10.8%	その他	1,326	17.6%
H30年度	8,443	+11.5%	合計	7,536	100%

根釧の経済概況（令和2年9月末基準）

住宅着工戸数

根室

■R2年4～9月の着工戸数は37戸で前年比1戸増加。内訳をみると、持家が前年同期比2戸減少、貸家は3戸増加。

□根室市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R2年	4~9月	37	+1	+2.8%
R2年	9月	3	0	0.0%
R2年	8月	3	+1	+50.0%
R2年	7月	10	+3	+42.9%
R2年	6月	4	▲3	▲42.9%
R2年	5月	13	+9	+225.0

		年別・利用別					
		持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R2年	4~9月	24	13	0	0	37	2.8%
R1年	4~9月	26	10	0	0	36	前年並
H30年	4~9月	24	11	1	0	36	▲14.3%

公共工事請負高

■R2年度上期は請負額 210億円で前年並みに推移。工事種類別で見ると、主要工事の一般土木は前年同期比3.7%減少。建築は同46.6%増加。

		年度別	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R2年	4~9月	21,034	0.0%
R1年	4~9月	21,031	+15.9%
H30年	4~9月	18,144	+1.9%

		工事種類別 (R2年4~9月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
一般土木		11,836	▲3.7%
舗装		789	▲32.0%
建築		4,338	+46.6%
電気		1,171	▲28.3%
管		586	▲36.2%

企業倒産動向

■R2年4～9月の根室管内は倒産件数2件、負債総額は33百万円。件数は1件増加、金額は前年比65百万円減少。

各年(4~9月)	年別			
	【根室管内】		【うち、根室市】	
	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)
R2年	2	33	0	0
R1年	1	98	0	0
30年	2	107	0	0
29年	6	2,840	1	312
28年	4	590	2	106

訪日外国人延宿泊客数

■R1年度下期の外国人延宿泊客数は4,238人で前年同期比23.2%減少。国籍別にみると、中国がシェア22%と最も多く、次いでイギリス、台湾と続く。

R1年度下期 月別推移			○R1年度下期 国籍別		
月	(千人)	前年比	国籍	(千人)	シェア
3月	181	▲70.3%	中国	945	22.3%
2月	2,170	▲30.5%	イギリス	596	14.1%
1月	762	+51.8%	台湾	465	11%
12月	278	▲9.7%	アメリカ	432	10.2%
11月	153	▲43.5%	香港	280	6.6%
10月	694	▲1.1%	シンガポール	237	5.6%
年度別推移			韓国	59	1.4%
R1年度	8,900	▲21.2%	その他	1,224	28.9%
H30年度	11,290	+5.4%	下期合計	4,238	100%

釧路

■R2年4～9月の着工戸数は391戸で前年と同じ。内訳をみると持家前年比17戸減少に対し、貸家は24戸増加。

□釧路市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R2年	4~9月	391	0	0.0%
R2年	9月	107	+58	+118.4%
R2年	8月	356	+21	+60.0%
R2年	7月	44	▲88	▲66.7%
R2年	6月	48	▲4	▲7.7%
R2年	5月	74	+20	+37.0

		年別・利用別					
		持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R2年	4~9月	182	181	3	25	391	0.0%
R1年	4~9月	199	157	2	33	391	+3.4%
H30年	4~9月	187	170	0	21	378	▲45.7%

■R2年度上期は請負額 416億円で前年同期比13.7%の増加。工事種類別では一般土木が22.7%増加に対し、建築16.1%の減少、舗装が12.1%の減少。

		年度別	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R2年	4~9月	41,686	+13.7%
R1年	4~9月	36,657	+6.7%
H30年	4~9月	34,361	+15.0%

		工事種類別 (R2年4~9月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
一般土木		21,480	+22.7%
舗装		1,558	▲12.1%
建築		8,174	▲16.1%
電気		2,264	+3.2%
管		1,769	+86.8%

■R2年4～9月の釧路管内は倒産件数8件、負債金額は753百万円。件数4件増加、金額は前年比522百万円増加。

各年(4~9月)	年別			
	【釧路管内】		【うち、釧路市】	
	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)
R2年	8	753	4	284
R1年	4	231	2	99
30年	5	433	5	433
29年	10	1,484	8	1,362
28年	4	145	2	68

■R1年度下期の外国人延宿泊客数は86,166人で前年比20.4%の減少。新型コロナ感染拡大が顕著となった2～3月が大幅に減少する。国籍別にみると、台湾がシェア35%と最も多く、次いで中国、香港と続く。

R1年度下期 月別推移			○30年度下期 国籍別		
月	(千人)	前年比	国籍	(人)	シェア
3月	689	▲95.9%	台湾	29,853	34.6%
2月	20,953	▲42.0%	中国	23,773	27.6%
1月	24,521	+26.4%	香港	7,939	9.2%
12月	14,240	+3.8%	シンガポール	5,406	6.3%
11月	8,409	+20.2%	アメリカ	3,078	3.6%
10月	17,374	+11.0%	マレーシア	2,021	2.3%
年度別推移			韓国	1,365	1.6%
R1年度	167,106	▲10.8%	その他	12,731	14.8%
H30年度	187,399	+0.2%	合計	86,166	100%



2020.12

MIRAI REPORT ISSUE.005

 **大地みらい**信用金庫 地域みらい創造センター